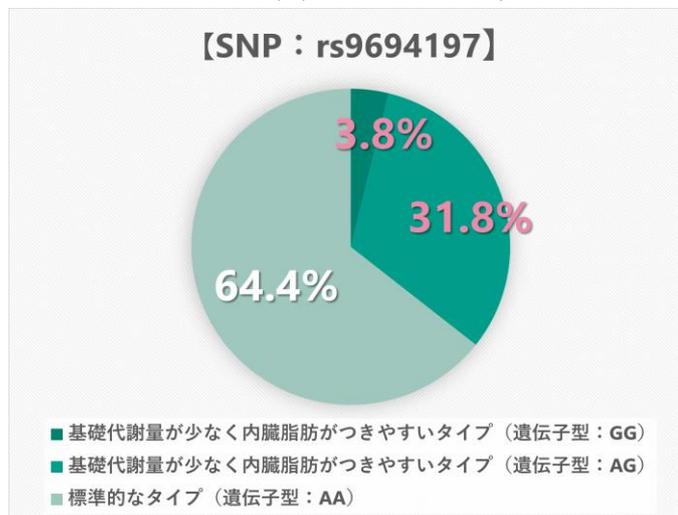


・日本人はヨーロッパ系アメリカ人と比べて内臓脂肪がつきやすい

当社の遺伝子解析のデータによると、「基礎代謝と内臓脂肪」に関する遺伝子型【SNP：9694197】において、日本人の約36%が「基礎代謝量が少なく内臓脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：GG、またはAG）」に該当しました。

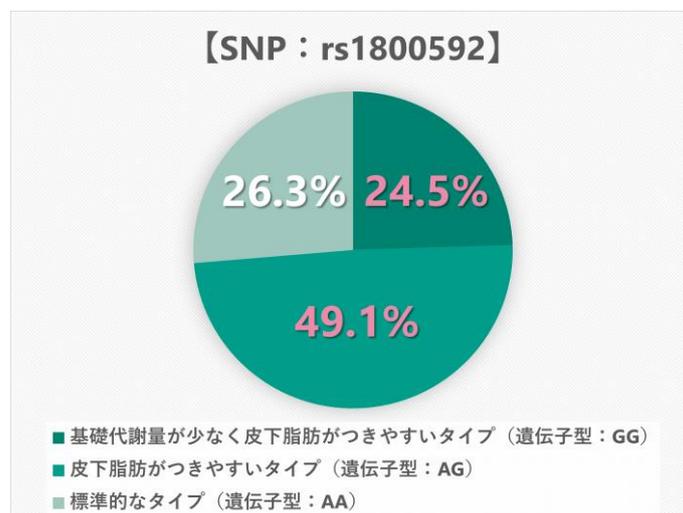
さらに、40代の日本人男性とヨーロッパ系アメリカ人男性を対象に、CTスキャン検査を実施して、おなかの内臓脂肪と皮下脂肪の面積を比較した研究では、日本人はヨーロッパ系アメリカ人より腹囲が小さかったものの、腹囲の大きさが同じ人どうしで比べると皮下脂肪を1としたときの内臓脂肪の面積は日本人が1.02、ヨーロッパ系アメリカ人が0.75という結果でした。つまり、「日本人男性の方が内臓脂肪がつきやすい」ことが報告されています。^{※1}

※1 根拠とする文献は次の通りです。Kadowaki T, *et al.*, 2006 "Japanese men have larger areas of visceral adipose tissue than Caucasian men in the same levels of waist circumference in a population-based study." Int J Obes. 30(7):1163-5.



・日本人の約4人に3人が「皮下脂肪がつきやすい」遺伝子タイプ

一方で、「基礎代謝と皮下脂肪」に関する遺伝子型【SNP：1800592】において、日本人の遺伝子型の割合は、「基礎代謝量が少なく皮下脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：GG）」が24.5%、「皮下脂肪がつきやすいタイプ（遺伝子型：AG）」が49.1%でした。つまり、日本人の約74%、約4人に3人が「皮下脂肪がつきやすい」遺伝子タイプに該当しました。



・日本人は生まれつき不安を感じやすい

神経伝達物質の1つ、セロトニンが脳内から減少すると、人は不安を感じたり、気分が落ち込んだりしやすいと考えられています。このセロトニンの分泌量に関わっているのが、セロトニントランスポーター遺伝子型です。セロトニンの分泌量が少ないS型と、分泌量が多いL型の2種類があり、組み合わせによって、「SS型」「SL型」「LL型」の3つの遺伝子タイプに分かれます。

当社の遺伝子解析のデータによると、日本人における遺伝子型の割合は、「SS型」が54.1%、「SL型」が38.7%で、不安を感じやすいとされる「SS型」とやや不安を感じやすいとされる「SL型」に該当する人の割合は、9割を超えています。不安を感じにくい、いわゆるポジティブ遺伝子の「LL型」は、わずか7.2%でした。

また、日本人を含む東アジア人はヨーロッパ人に比べて、S型を持つタイプが多く、中でも割合が一番高いのは日本で、中国、ヨーロッパ、アフリカと続くという研究結果があります。^{※2}

※2 根拠とする文献は次の通りです。Luke Esau, *et al.*, 2008 "The 5-HTTLPR polymorphism in South African healthy populations: a global comparison." *J Neural Transm.* 115(5):755-60.

